

いざいざ、出世の街浜松へ



徳川家康公 浜松城築城 450th

徳川家康公が元亀元年(1570)に築城し、29歳~45歳までの17年間を過ごした浜松城。

駿遠経営の拠点とし、天下統一への礎を築いた場所である。家康公が浜松城に入城してから約300年間、再任を含め25代の城主が在任。歴代城主によって浜松城は拡張、改変が繰り返された。そして歴代城主の多くが幕府の重要ポストに登用されていることから、別名「出世城」の名を持つことで知られている。開運にご利益があると話題になり、週末は多くの観光客で賑わいを見せている。

徳川家康公築城450年を迎えた2020年、浜松を観光するなら浜松城は絶対に外せない。

戦国時代に家康公が城から望んだ景色を想い、歴史ロマンを感じてみるのもいい。家康公の関東移封後に拡張された大規模な近世城郭の姿を想像するのも面白いだろう。そして浜松に点在する家康公ゆかりの地をひとしきり巡拝すれば、その恩恵を賜ることができるかもしれない。さあ、2020年の浜松を徹底的に楽しもう。

浜松城築城450年



浜松城の歴史や家康公ゆかりの地などをパネルで紹介。知識を深めてから浜松散策をすれば、より一層旅が楽しくなるはず。

Point 1 新作ジオラマ 「家康公の入城と浜松の民」



ジオラマ作家 山田卓司さんによる作品。元亀元年(1570)の築城当時、馬に乗って家臣と城下町を巡る家康公を1/8のスケールで再現。城下町の木造家屋は漆器に色を塗る職人の家。当時の庶民の暮らしぶりを表現している。

こちらは家康公顕彰四百年記念事業の一環として作られたジオラマ「三方ヶ原の戦い」。2cmの武者人形450体が壮大な合戦を繰り広げている。



Point 2 家康公3D肖像

「家康公の視覚化」をコンセプトに、三方ヶ原の戦いに出陣する当時31歳の家康公を表現した人形。サイズは家康公の身長と同じ159センチ。歴史学者の磯田道史さんが文献を参考に表情や装飾品を決め、特殊メーク専門家のアーティストJIROさんが制作。今にも動き出しそうなリアルな家康公像は一見の価値あり。

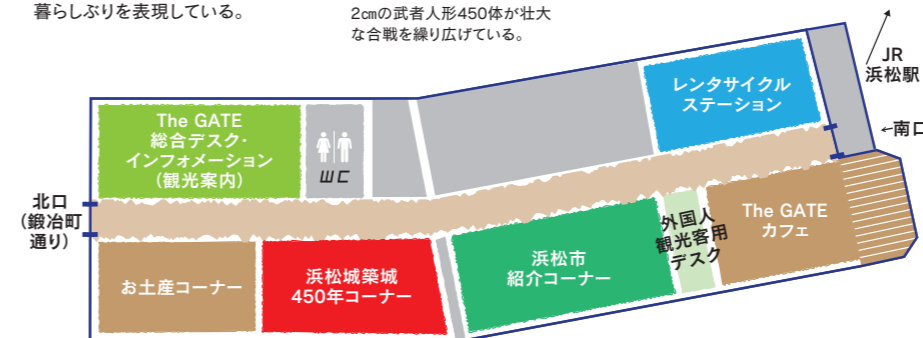


大きな徳川家の葵紋はインパクト大!



VR体験コーナー

ゴーグル型の端末機器をのぞいてみると、現在の浜松城・高根城・二俣城の敷地内から360°の景観が鑑賞できる。まるで空を飛んで、上空からお城を眺めているようだ。



浜松魅力発信館

The GATE HAMAMATSU

浜松市中区旭町37 ☎053-401-0223
JR浜松駅から徒歩3分、新浜松駅北 遠州鉄道高架下
10:00~19:00 入館無料
※レンタサイクル及びカフェについては営業時間が異なる場合があります。